

1. 今回の研修における目的やねらい

すべては「知ること」から始まると考え、開発や国際協力へ向けて世界の現状を生徒に伝えたいと思いこの研修に参加した。押しつけの援助ではなく、現状を知った上で自分との関わりをどう模索していくかを自らの力で考えさせたいと思った。一教員の力で世界を大きく変えることは難しくとも、教育現場に身を置く者として目の前にいる何十人、何百人の生徒たちに「伝える」役割を担う責任の重大さを再認識した。その一人一人の意識に影響を与えることができれば多少なりとも世界を見る目がかわっていくのではないだろうか。そのためにまずは自分自身が実際に得た生の経験を素材とすることにより、本やインターネットから得る情報よりも臨場感を持って伝えることができると考えた。

また、日本が経済発展したことによる弊害は計り知れず、「経済的な豊かさが幸福への絶対条件となりうるか」という問いも持って研修に参加した。

2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

非常に密度の濃い研修であり、期待以上のものを得ることができた。関係の方々から心から感謝している。特に、O&OD プロジェクトの理論を教授いただいた上でそのモデル地区（マセユ村）での実践を視察できたこと、実際に村の方とじっくりお話ができたことはとても貴重な経験であった。村人たちが協力して、可能なことからものごとを作り上げていく過程は私たちも大いに学ぶべき点が多かった。自分たちで集会を開き、寄り添っていくこと自体が学びであるとの村の方の言葉にただ「モノ」を供給していくのではない、発展的且つ永続的な援助を垣間みることができたように思う。学校との交流も2校させていただき、目をきらきらと輝かせたかわいらしい子どもたちと接することができた。初めて目にする日本文化やデジタルカメラに驚き阿鼻叫喚する素直な反応に心が洗われるようであった。また実践授業への素材として子どもたちの教育に対する思いや幸福感など、価値観の相違や共通点なども見いだすことができた。

また、自分自身のことになるが、今回タンザニアを実際に訪れ遠くに感じていたアフリカに少し近づくことができ、勝手ながら親近感を覚えることができた。おいしい食事、とても明るい国民性、訪れる訪問先で私たちを心から歓迎しあたたかく迎えてくださったおもてなしの精神から、タンザニアがとても好きになった。安全な飲料水の不足、電気や道路などインフラ整備問題、教育現場での問題などまだまだ課題も多く残るこの国と、個人としてどう関わっていくか深く考えさせられるきっかけをいただいた。

3. タンザニアから学んだこと

1日1日、一瞬一瞬が教材の宝庫であった。見るもの聞くもの感じるものに何一つ無駄がなかった。地方の村へ行き、多くの村人や学生と交流して強く感じたことは、彼らを取りまく環境は依然厳しくとも、彼らは底抜けに明るく笑顔を絶やさないということであった。一つのテーマであった「経済的な豊かさが幸福であることの絶対条件であり得るか」との問いの答えは非であると感じる場面が多々あった。そして私たちが物質的な豊かさと引き換えに失ってしまったものについて考えさせられた。しかしながら安全な飲料水の確保、教育現場での教員数の不足（特に中等教育学校、地区によっては女性）や教科書・施設などの慢性的な不足などは依然大きな問題であり、まだまだ課題

は山積みであることも同時に感じた。今後、教員としてだけでなく一個人としてどうアフリカやタンザニアと関わっていくかが自身の課題となると感じた。

4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

英語の授業や総合学習、LHRなどで生徒に伝える時間を模索していきたい。

まず、前述した文化の相違点と共通点を考察し、多様な価値観を受容する視点を身につけさせたい。同じ地球に住む仲間として自分に何ができるか、今後アフリカとどう関わっていくかということまで発展させたいと考えている。言語的な視点からは、スワヒリ語のアクセントが多用されるタンザニア英語を紹介し、日本の英語教育はアメリカ英語に重点を置いているがアメリカ英語も世界にある様々な英語のひとつ種類であること、さらには日本人が話す日本語アクセントの英語もあってよいということまで気づかせ、もっと自信をもってスピーキングを行おうというメッセージも伝えていきたい。また、地理的にも遠く人々の肌の色も違うタンザニアでは日本との違いに意識が行ってしまいがちだが、女性グループや学生との交流から同じ点、似ている点を多く発見できたことも喜びであった。環境の違いや貧困は生徒の興味を引きやすく教材として使いやすいが、どこにいても結局は同じ地球に住む仲間であること、隣人であることを生徒に伝えていきたい。

5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

・マセユ村の視察やムグラシ中学校訪問では、実際の視察や訪問の前日に専門家や隊員さんとの食事会があり、様々な微調整や相談をその場ですることができた上で翌日に備えることができたのでとてもスムーズに進んだように思う。このような日程を組んでくださった JICA の担当者さんにはとても感謝しています。また、研修中の JICA 職員の方が途中から同行し、振り返りや細かい行動にも一緒に参加してくださったことでざっくばらんにこちらの疑問に答えてくださり、とても貴重な機会を得た。

・男女1名ずつの JICA スタッフの同行は大変心強く、緊急時に備えていただけたことに感謝している。密度が濃く、緻密に計画された研修でありながら、我々の体調にも配慮していただき無理のないスケジュールを組んでいただけたことにも感謝である。

・世界遺産などを実際に目にし、それと携わる現地の方たちの暮らしを伝えることも授業での大きな素材となると思うので、キリマンジャロ、セレンゲティ、ンゴロンゴロ、ザンジバルなどの近くで研修できることも一案かも知れない。

6. 海外研修での役割（日直や各担当）を振り返っての感想・提案など

・会計係を担当した。毎朝移動のバス内で 30,000Tsh を集金し、その日の食費に充てた。概ねうまく機能したが、時々予算よりも食費がオーバーし、臨時集金となってしまうこともあったのもう少し多めに集めておき、予算オーバーしたときのためにプールしても良いかもしれない。

ドライバーさんなどへ渡すチップ等もこのなかから出した。

7. その他、研修全般を通じての感想・意見など

研修に参加したチームの皆さんに本当に助けられた。とても積極的でありながらチームの和を大切にしようとする方ばかりで、とても楽しく研修をさせていただくことができた。年齢も経験年数も校種も全く異なる9名が同じ思いを持って集結し、それぞれが少しでも学びを吸収しようとする強い志に、ただただ感銘を受けるばかりであった。研修そのものの内容は去ることながら、このメンバーで参加し多くの意見交換ができたことが大きな学びとなったように思う。事前に行われた数回の研修でチームの結束が強まり、特に宿泊研修はその中でも密度の濃いものであった。自分にはな

い視点から問題を考える方々と連日振り返りを行うことによって新たな発見が生まれ、勉強になることばかりであった。

また、各訪問先で出会う JICA 職員、専門家、隊員の方々とお話できる機会に恵まれたことは大変貴重な経験であった。視察から得ることだけでなく実際にそのプロジェクトや国際協力そのものに関わる方はとても輝いていて、一言一言に大変重みがあった。そういった方たちとお話できたことで得るものは大きかったと感じている。

8. 今後の本研修参加者へのアドバイスなど

・写真の撮り方は事前にきちんと打ち合わせておくべきだと感じた。自分も含め、一斉にカメラを取り出し撮影する場面や、人にカメラを向けてしまうような場面もあったので、記録係に任せるところはしっかりとお願いし、相手の人権や気持ちを尊重し不用意にカメラを向けることがないように注意しなくてはならないと感じた。

・現地の言葉は積極的に学び、積極的に使っていくことにより、こちらの敬意が伝わるように思う。援助をする国、援助を受ける国、の関係ではなく、同じ地球に住む仲間としてのこちらの想いを態度で表すことは非常に大切だと思う。

・今回の研修では大きな怪我や病気に見舞われることなく全員が無事に帰国するができたが、危機意識を高めるよう再三にわたって研修を受けたため全員が防蚊スプレーを常備するなどしていたことが大きかったように思う。マラリアで亡くなる人は少なくない。村では野良犬などがすぐそばにいることもあった。チーム全員で共通した認識は必要であるように思った。

9. 各訪問先等の所感

日時	テーマ	所感
8月11日(日) -12日(月)	日本からタンザニアまでの 移動中および現地到着	成田ではタンザニアへの思いでワクワクするばかり。20時集合のためパスポートコントロールを通過した後は免税店を含めほとんどの店が閉店していた。トランジットのドーハでは5時間ほどあったため、チームの皆さんとお茶を飲みながら歓談。有意義な時間。ダルエスサラーム空港に到着してからバスの車窓から目に入るものはすべてが新鮮で一つでも見逃したくないという気持ちが強く、写真を撮りたい気持ちでいっぱい。
8月12日(月)	JICA タンザニア事務所表敬 研修ブリーフィング	健康、治安に関するブリーフィング JICA 職員の方々と会食。電化率が低いと聞いた割には都市部に電力が集中しているのを感じた一方、ホテルから見える夜景はやはり真っ暗であったことに複雑な思いを感じながら1日目終了。
8月12日(月)	本日の振り返り	長時間のフライト後のため、なし。
8月13日(火)	JICA タンザニア事務所 研修ブリーフィング	JICA の国際協力、教育システム、OD&D についてご教授いただく。この時点で恥ずかしながらまだまだ認識不足の点も多く、大変勉強になる時間であった。ここでご教授いただいた知識をもとに、実

		<p>際にはどのように運用されているか翌日以降のマセユ村での視察に活かされることになると思うと、少しでも知識を吸収したい思いでいっぱいだった。</p> <p>その後、地元の方もよく利用するという安くておいしい食堂で昼食をいただく。2000Tsh-4500Tsh程度でおなかがいっぱいになるほどの量をいただくことができた。その後、足立さんに郵便局に連れて行っていただき、ポストカードや切手などを購入。</p>
8月13日(火)	モロゴロへ移動	<p>約4時間の道のり。JICA 職員のフィリップさん、サラさんがここから同行してくださった。行程中ずっと同行・通訳を努めてくださり、大変心強かった。</p> <p>ダルエスサラームから離れるにつれて寂しくなる町並み、手持ち無沙汰の若者の多さに、都市部と農村部の格差を感じる。しかし後に幹線道路沿いの農村はまだいい方であると聞いた。</p>
8月13日(火)	本日の振り返り	<p>モロゴロへ向かうバスの車窓から見て感じたことなどをシェアし、今後の視察に生かす。幹線道路から見える果物などの販売では、購入している人を見かけない、など。様々な疑問が浮かぶが、これらの疑問の答えのヒントとなるものをこの研修中に見つけることができるのか。思いを共有しながら翌日からいよいよ本格的に地域に入っていく期待が膨らんだ。</p>
8月14日(水)	Maseyu 村 Mazizi 地区 Maseyu 村 Mjini 地区 サイト視察	<p>O&OD プロジェクトの視察。まず、日本から用意した紙芝居形式のフリップで日本の経済発展や農業に関する説明を行った。村人はメモをとったり前のめりで聞いてくださったり積極的に質問をとってくださいたりと、とても興味を持って聞いてくださった。使用した紙芝居を置いて行ってほしいといった声も出た。その後、小学校の視察、建設中の幼稚園・診療所の視察、レンガ銀行の視察を行った。また女性グループの活動を紹介していただいた。村の女性が用意してくださった大変おいしい昼食をいただいた。その後、当初の予定にはなかったモロゴロ県知事の表敬訪問の機会に恵まれた。県知事は大変気さくな方であった。</p>
8月14日(水)	専門家との懇談会	<p>マセユ村の視察後、翌日の関係者インタビューと交流に向けてホテルの中庭でお茶を飲みながら専門家お二人と JICA 職員に同席していただき翌日に向けて打ち合わせを行った。また、ソーランと歌</p>

		の練習も行った。夜は同じく2名の専門家、1名のJICA 職員の方と食事会を行った。私たちの質問に懇切丁寧に答えてくださったり、開発に寄せる想いを聞かせていただいたり、とても貴重な機会であった。
8月14日(水)	本日の振り返り	翌日のインタビュー、交流に向けて、打ち合わせを行う。インタビューのグループわけなど。
8月15日(木)	Maseyu 村 Mjini 地区 関係者インタビュー	教育、農業、その他の3グループに分かれインタビューを行った。私たちのグループは日本人2人、村人(女性)3人のグループであった。家庭科の教員が質問をしていく流れで、結婚観や恋愛感などかなり突っ込んだところまで話を聞くことができ、「女子会」のような雰囲気となり和やかで大変楽しいインタビューとなった。女性の恋愛トークは万国共通であると感じた瞬間であった。
8月15日(木)	小学校視察、村人との交流	マセユ小学校の視察。幼稚園は校舎がなく青空教室の様相を呈していた。昨日視察したマジジ地区の小学校とも少し違った雰囲気を感じ、特に女性の教員数の違いに驚く。 村人との交流では、ソーラン、歌、空手、相撲などを披露。マセユ小学校の校長先生がとても積極的に参加してくださった。また女性グループもダンスや歌を披露してくださり、とても和やかな交流となった。
8月15日(木)	市内視察(モロゴロ)	書店(教科書購入)、カンガ、スーパー、市場での視察を行った。地元民の生活に密着したお店を見ることができて、案内してくださった赤堀隊員にとっても感謝している。書店では実際に生徒が使っているノートや教科書を購入することができた。
8月15日(木)	隊員との懇談会	赤堀隊員の薦めるとてもステキなお店で翌日の打ち合わせを含めた夕食会を行った。このタイミングで夕食会を行うことができたのは、翌日のスムーズな進行に大きく影響したのではないかと思っている。
8月15日(木)	本日の振り返り	グループごとに行ったインタビューのシェア。 「もともと村人が団結する気持ちはあったがそれをどこに向けるべきかわからなかった。O&OD プロジェクトでそれがわかった」とのインタビューを聞き、このプロジェクトの果たす役割はきわめて大きいのだと改めて実感する。
8月16日(金)	ムグラシ中等学校 赤堀隊員	赤堀隊員の授業を見せていただいたあと、紙芝居を用いての日本の文化紹介を行ったあと、中学生

		<p>にアンケートを実施。事前にメンバーで出し合った 10 個の質問を 1 枚のプリントにまとめたもの。「日本の印象は?」「一番大切なものは?」といった質問に英語で一生懸命書いてくれた。その後、折り紙で兜を作ったり、習字に挑戦したりなど日本文化に触れてもらうプログラムとなった。事前に考えていた計画とは若干異なったが、想定範囲内であり、臨機応変に対応した。その後、グラウンドに出てソーラン節・歌（ふるさと&マライカ）・日本の遊びなど。</p>
8月16日(金)	ミクミ国立公園通過 モロゴロへ移動	<p>念願の野生動物に会うことができた。キリンは黄色くないのだと実感した。ほか、象、antelope、サル、シマウマを見ることができた。私たちが歓声を上げるとドライバーさんはバスの速度を緩めてくださり、大変ありがたかった。</p>
8月16日(金)	本日の振り返り	<p>体調不良の方がいたため、長時間は行わず。本日の交流より意見交換、次の学校の交流に向けての打ち合わせを行う。</p>
8月17日(土)	バガモヨへ移動	<p>午前中は移動。これより先は研修中の JICA 職員の方が同行してくださり、車中でも様々なお話を伺うことができた。道中大きなバオバブの木のもとで記念撮影。1800 年代、飼っていたロバをバオバブの木にくくりつけたままザンジバルへ行き、そのくさがりに木にのめり込んでしまったという逸話をもつ木である。その雄大さに生命の尊さを感じた。</p>
8月17日(土)	市内視察（バガモヨ）	<p>加藤隊員、谷口隊員の案内のもと、町に新しくできたばかりのレストランで昼食をとった。その後、奴隷博物館、魚市場、町で一番眺めの良いカフェ、世界的に有名なザマセファミリーのパフォーマンスを見せていただけるなど、大変充実した市内視察であった。案内して下さった隊員のお二人には感謝ばかり。その後ホテルのレストランで夕食。ここでも隊員のお二人に貴重なお話を聞くことができ、大変有意義な時間となった。</p>
8月17日(土)	本日の振り返り	<p>ホテルのレストランにて。案内していただいたザンジバルの町から考察。奴隷の歴史などは日本とは縁遠いものと考えてしまいましたが、Human Rights Watch が公表する人間搾取のランク Tier では日本も B ランクに位置することに、日本の法整備についても考えるべきことは多い。</p>
8月18日(日)	ダルエスサラームに移動	<p>それぞれ車中で意見交換などしながら向かう。</p>

8月18日(日)	教材等購入	ティンガティンガ村へ。日本での販売価格との差に驚きながら、教材のテーマとなるものを模索しながら作品を選んで行く。その後、ショッピングセンターへ。しばしお土産等購入。ここで追加の両替を行った人多数。
8月18日(日)	本日の振り返り	部屋でルームサービスをいただきながら、翌日の準備、打ち合わせを行う。昼食でお話した JICA 職員の方との懇談内容をまとめる。
8月19日(月)	キパンランガンダ中等学校 米澤隊員	米澤隊員と合流、約1時間の物理の授業を見せていただいたあと、お茶をいただきながら職員室で先生方と交流会を持つ。予定していたよりも長く時間をとっていただき、予定よりもだいぶ時間がおしてしまったが、臨機応変に対応していただきありがたかった。3グループに分割して予定していた交流も、予定を変更し2グループ(FORM1)で行った。紙芝居、習字、兜づくり。最後に校庭に出てソーラン、マライカ、ふるさと、空手を行った。
8月19日(月)	教材等購入	昼食を終えてスーパーでの教材購入後、ホテルに早く戻ることができたのでホテルで振り返りを行う。今日は帰国後の実践授業に向けての展望を一人一人発表する。
8月19日(月)	本日の振り返り	夕食後、ホテルの部屋で続きを行う。 ここで、会計が思っていたより多くなり追加集金。多くの方が帰国直前にお金を余らせないよう現金に余裕がなかったため、迷惑をかけてしまった。
8月20日(火)	JICA タンザニア事務所 報告会	一人ずつ、今回の研修での学びを発表する。 研修の初日に同じ場所でお話しを伺った時から少しでも多く学んでこられたことを願う。今後も、この研修だけで終わることなく様々な知識を吸収しながらもっと深く開発と関わっていく方法を模索したいと思う。
8月20日(火)	在タンザニア日本大使館 表敬訪問	岡田大使と懇談。私たちの研修の振り返りに熱心に耳を傾けてくださり、質問にも丁寧に答えてくださった。とても穏やかで優しい方で気さくに写真撮影にも応じてくださった。JICA 友成次長のお話によると現場主義の方で開発の現場に実際に赴き視察されているとのこと。このような方が日本の代表をされていることに対し日本国民として誇りに思う。
8月20日(火) -21日(水)	タンザニアから日本までの 移動中および日本到着	大変名残惜しかったが、研修で得た様々なことに胸に思いを巡らせていたためか行きよりも早く感じた。